

2020年7月7日

学生・保護者各位

茨城工業高等専門学校
学校長 米倉 達広

新型コロナウイルスの感染状況を踏まえた本校の運営方針について

平素より本校の教育・研究活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

6月8日（月）より茨城県は社会経済活動再開に向けた対策の段階的緩和として対策ステージを2からステージ1へと引き下げました。これにより、外出・イベント・営業に関する自粛要請が解除されるとともに（東京圏・北海道への不要不急の移動は19日以降）、県立高校は通常開校・通常授業となりました。しかし、最近の東京における感染者の拡大および県内でも感染者がわずかながら出ている状況から茨城県でも7月3日に対策ステージが2へと再び引き上げられました。このような状況で本校としては、全面再開できる体制整備をしつつ、第2波、3波が来ることも想定し、対面授業、遠隔授業、いずれでも対応可能な形で準備をしています。

4月からここまでの学校運営について

今回の新型コロナウイルス感染拡大を受けた対応として、本校が県立高校と異なる方針で学校運営を展開している背景に、主に2つの高専の特徴が大きく関係しています。1つは、実験・実習を中心としたカリキュラムであること、もう1つは約200名の学生が生活する学寮があることです。

周知の通り本校では座学の遠隔授業を早期に展開する一方で、実験・実習については原則として遠隔での実施は困難であると判断しました。したがって、感染の広がりが落ち着きを見せ始めたタイミングで優先的に実施をしなければならないのはこれら実験・実習でした。2ヶ月間取り組むことができなかつた実験・実習の総時間は、まさに高専であるがゆえに、相当なものにのぼります。3密回避をはじめとした十分な対応をとりつつ、その遅れを取り戻すためには、どのような時間割を組まなければいけないか。その答えが、6月1日にお示しした分散登校型実験・実習の時間割です。この時間割の下では、残念ながら対面授業を全面的に展開することは困難な状況でした。

また、通常の高등학교とは異なり、高専にとって授業等の全面再開は、同時に、学寮の全面再開を意味します。そして学寮の再開は、対面授業や実験・実習の再開よりも数段上の慎重かつ丁寧な検討と準備が要求されます。学寮においては決して広くはない建物の中で、最大で200人近い学生が共同生活を行います（今年度の寮生は182人）。食堂、洗面所、風呂、補食室、談話室、洗濯乾燥機、お手洗いは当然全て共同であり、また1年生の居室は2人部屋です。3密回避をはじめとした「新しい生活様式」を学寮において実践

し、新型コロナウイルスの感染やクラスターの発生を防ぐ上で何をすべきか。議論を重ねた結果、本校では、少なくとも当面の間は寮生の数を3分の1程度に抑えた上で、運営状況等を慎重に見極めながら、段階的に寮生数の拡大を検討していくという結論に至りました。

このように、遠隔授業の実施が困難な実験・実習の優先的再開と、安全確保に最大限配慮した学寮運営という以上2つの事情から、座学の遠隔授業の継続と、限定的な学寮再開に基づく分散登校型実験・実習を実施してきました。学生ならびに保護者の皆様にご苦勞とご迷惑をおかけすることとなり、学校を預かるものとして断腸の思いでありましたが、高専に固有の事情を様々な角度から検討した結果の苦渋の決断であったこと、何卒ご理解いただければと思います。

今後の教育活動について

学生・保護者の皆様のご協力のもと分散登校型実験・実習は順調に進んでおり、当初の予定通り7月17日（金）には多くの系および学年の実験・実習が区切りを迎えます。また、この間の実際の寮運営を通じて、寮生数を増やした上での寮の安全確保も、若干の寮の改修、食堂へのアクリル板設置等の対策により7月いっぱいを目処に完了する予定です。以上より、現時点での予定として、7月20日（月）以降、座学は遠隔授業を継続しつつ必要に応じてキャンパス内での学習支援を、また、卒業研究、体育など、実験・実技を含む科目等では対面授業を順次開始していきたいと考えております。また、課外活動につきましても、段階的な活動再開に向けた検討を進めていく考えです。

詳細につきましては、7月13日（月）の週に本校ウェブサイト上でご案内をさせていただく予定です。

以上、これまでの本校の運営についてと今後の方向性についてご説明いたしました。先に記した通り、現在東京をはじめ再び感染者数の増加が見られる状況にあり、急な予定変更を迫られる可能性も否定できません。学生・保護者の皆様にはご迷惑をおかけすることとなるかもしれませんが、この点、お含みおきをいただきますようお願いいたします。